

ケース
スタディ

NISAの活用で悩む お客様にはこうアドバイスする

スクラージャパン株式会社
ファイナンシャルプランナー
ライフアセットコンサルティング(株)
CFP®
ファイナンシャルプランナー
CFP®

①・② 伊藤亮太 ③・④ 菱田雅生 ⑤ 美崎恵美

CASE 1

NISA口座を作ったものの どんな商品で運用すべきか 悩む資産形成層のお客様



NISA口座を開設したものの、どう利用してよいのかわからない。そんなお客様も多いのではないだろうか。ここでは資産形成層である30歳代のお客様に商品提案することに焦点をあてて解説したい。

お客様の環境、資産運用への考え方によってNISA口座の活用方法は異なるものの、30歳代は長期で運用ができるという点は共通事項といえる。そこで、まずNISA口座を開設した経緯を聞いてみよう。

このときに、明確な目的があるのであれば、その目的のためにどう運用していくかをお客様と考えるべきといえるし、大きな目的がないという場合にも何のために運用したいと思うのか、お客様に目的意識を把握してもらおうとそこから始めるとよいであろう。

ロールオーバーにより10年間非課税を活用する方法を提案

運用に対する目的が決まれば、おのずとその目標に対する運用期間が決まってくる。また、その目

的に対して、どのくらいのリターンを求めるのかも決まってくる。

例えば、NISAが非課税口座であることにメリットを感じており、余裕資金のうちから長期運用を心掛けたいというお客様がいたとしよう。その場合には、投資してから5年後に引き出さずに、6年目の非課税口座にロールオーバーし、10年間非課税をうまく活用する方法を考えてみてはどうだろうか。

もし、5〜10年といった長めの投資ができるのであれば、日本株式だけでなく外国株式や外国債券に投資を行う株式投資信託といった、リスクは高めであるがリターンも高くなる可能性のある金融商品で運用することもよい。インドや中国、東南アジアといった新興国に投資を行う投資信託に5〜10年間投資を行い、年率3%以上などのリターンを獲得していく投資戦略もこの世代だからこそできる手法である。

NISAでは積立投資をうまく活用し、余裕資金の中から毎月3万〜8万円程度でコツコツ積立に

よる投資を行うことも検討したい。投資は初めてという方であれば、ドルコスト平均法をうまく活用することで、分散投資を図る提案もよいであろう。

非課税口座であり、余裕資金からの投資であれば前記のように積極的に運用することも提案の一つと考えられる。昨年から続く日本株高の流れに沿って、日本株に投資を行う投資信託の比重を高めることも検討してみるとよい。

夫婦で口座を作ることで
枠を増やしリスク分散する

それでは、教育資金や住宅資金の確保を重点的に考えており、NISAで少しだけ運用したいと考えるお客様にはどう提案すればよいであろうか。

まず、使用予定資金として必要な場合には、安全確実に預金での運用を心掛けることを提案しよう。繰上返済なども同時に提案されるとういであろう。また、預金金利がほとんどつかない現状に不満がある場合には、資金が必要となる時期に応じて個人向け国債な

どによる運用も検討し提案してみるとよいであろう。

こうした安全性の高い金融商品での運用を提案したのち、NISAをうまく活用して、株式投資信託などある程度リスクを取ることにも許容した商品提案すればよいのではないだろうか。

例えば、夫婦で口座を作り、非課税枠を少しでも多く利用するなどの方法がある。リスク分散からみれば、夫は積立投資(外国株式に投資を行う株式投資信託など)、妻は株価が低いときを狙って、ある程度まとめて日本株式投資信託に投資といった選択肢も有効かと思われる。長期で運用可能であるのならば、成長重視の株式投資信託などがよいだろう。

ただし、使い道が決まっている場合や積極的な投資は控えたい場合には、ミドルリスク・ミドルリターンもしくはローリスク・ローリターンのポートフォリオ構築が望ましい。NISAでの運用においても、株式に比べればリスクは低いと想定される外債を主な投資対象とする投資信託やバランス型

ファンドを提案する。また、複数の資産に投資を行うように、お客様自身で投資信託を組み合わせてみるといった提案もよいかもしれない。

短期間で運用する場合は
運用結果に目標を定めておく

NISAの活用の仕方として、ポータスを用いて行うことも一つの方法といえる。無駄遣いを防ぐぐらいであれば、運用を増やすことも検討すべきであろう。毎月の運用が難しい場合はポータスによるまとまった運用といった提案もよいのではないだろうか。ポータスを毎月均等にならして積立投資により日本株式、外国株式などの投資信託を用いてポートフォリオを作るのもよいであろう。

そのほか、毎月のお小遣い代わりにNISA口座を活用して利益を得たいということであれば、毎月分配型の投資信託を活用することを提案してみてもどうか。普通分配金であれば非課税で受け取れるメリットは大きい。主に外債に投資する投資信託であれば為替差

POINT

- お客様の運用目的を確認し、運用期間と期待リターンを明らかにしたうえで商品を選択する
- 長期運用が可能であることを活かし、積立投資を活用しながら新興国ファンドや成長重視の株式ファンドへの投資を検討